IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門（D部門）ニュースレター 2020年4月号 (<http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/nl/>)

産業応用部門長岡大会へのお誘い～長岡から醸せ！産業と技術革新の基盤～

Invitation to 2020 JIASC at Nagaoka

-Industry, Innovation and Infrastructure Technologies from Nagaoka-

2020年 電気学会 産業応用部門大会 実行委員会委員長

伊東 淳一（長岡技術科学大学）

Jun-ichi Itoh (Nagaoka University of Technology)

Steering Committee Chair of the 2020 IEEJ Industry Applications Society Conference

電気学会産業応用部門大会を8月25日から27日までの3日間、新潟県長岡市で開催します。1997年に故・高橋勲先生を実行委員長として部門大会を開催して以来、23年ぶりの開催となります。今年は、1日目の午前にアオーレ長岡（長岡駅前）にてヤングエンジニアポスターコンペティション（YPC）を行い、1日目の午後から長岡技術科学大学にて、プレナリーセッションおよび一般セッション、シンポジウムを行います。また、子供向け理科教室も例年どおり、部門大会に先駆けて8月15日に行います。

これまで、部門大会は函館、横浜、長崎とメジャーな観光地で開催してきましたが、長岡には、見事な田園風景に加え山古志村の棚田、錦鯉、少し足を伸ばせば弥彦山と豊かな自然に溢れています。また、誰しも歴史で習う縄文時代の火土器の発掘された馬高遺跡があり、米百俵の小林虎三郎、幕末の越後長岡の風雲児である河井継之助などの偉人たちの輩出した地であり、それらの記念館など、この機会に訪れるのに絶好な多くの観光スポットがありますのでぜひお楽しみください。

さて、新潟、長岡といえば、「日本酒」に期待をいただく方もいらっしゃるでしょう。ぜひご期待ください。醸造の町、摂田屋を初めとして、駅の近くにも多くの酒蔵があり市内は見学できるところもあります。また、駅前の飲食店では気軽に多くの新潟の酒を楽しむことができます。新潟には酒の肴をはじめおいしいものがたくさんあります。笹団子、栃尾の油揚げ、エゴ、岩牡蠣、ブリをはじめとする日本海の幸、焼き魚の王様ノドグロなど、あげれば紙面を埋め尽くすほどです。

長岡大会ではこれまでの部門大会から下記のような工夫をしています。

(1)「長岡から醸せ！産業と技術革新の基盤」というスローガンを設定しました。「醸す」には“酒や醤油などをつくる。醸造する。”の意味のほか“その場に、ある雰囲気や状態を出現させる。”（三省堂大辞林三版より引用）との意味があります。また、「産業と技術革新の基盤」は国連サミ

ットで定められた Sustainable Development Goals（SDGs、持続可能な開発目標）のSDG9に定められた目標であり、長岡技術科学大学が世界唯一のハブ校を担っています。まさに、部門大会は新潟で醸した日本酒や地元のおいしいものをつまみながら、持続可能な世界を目指して、産業と技術革新の基盤について議論を醸したいと思います。

(2) 論文締め切りが6月初旬になりました。これまで、部門大会は5月中旬の締め切りでしたが、昨今の働き方改革や論文集の電子化に伴って、6月初旬としています。ゴールデンウィークにしっかり休んで鋭気を養っていただき、ぜひ多くの論文投稿をお願いします。

(3) 特別公演は、これまでどおり、中国電気学会（CES）および韓国パワーエレクトロニクス学会（KIPE）からの講演に加えて、長岡らしく、長岡技術科学大学学長より「雪氷工学」に関する講演をいただきます。また、新潟県醸造試験場金桶場長より、新潟県の新潟酒に関する講演をいただき、日本酒に対するウンチクを深めていただき、楽しい意見交換の一助にいただければと思います。このほか、テクニカルツアーも長岡らしく、酒蔵見学などスローガンにちなんだ内容を用意しています。ぜひご参加ください。

実行委員会では、皆様にご議論いただきやすいような環境を作り、さらに参加していただいた皆様には存分に楽しんでいただけるように、鋭意努力中です。実行委員会一同、皆様のご参加をお待ちしています。よろしくお願いします。

図1 新潟が誇る銘酒と酒の肴たち